

## 総務常任委員会行政視察（概要）

### 1 視察日

令和6年5月15日（水）～16日（木）

### 2 視察項目（視察都市）

- ・かすかべ未来研究所について（春日部市）
- ・荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査について  
（荒川区）

### 3 参加委員

委員長：塚 理、副委員長：河本 光宏

委員：米川 勝利、下野 巖、安孫子浩子、円藤 こずえ

### 4 調査概要

かすかべ未来研究所は、自治体内設置型シンクタンクであり、市民福祉の向上を図ることを目的に設置された。総合政策部長を研究所長、政策企画課長を副所長とし、研究員は市職員に加え、研究テーマに応じて民間企業の職員などを専門研究員として構成している。調査研究後、施策に反映された事業として「ふれあい家族住宅購入奨励事業」があり、これは子世帯と親世帯が近居・同居するために初めて住宅を取得した世帯に対し商品券を交付する事業である。

荒川区が政策形成力の向上及び質の高い区民サービスの提供を図るため、荒川区自治総合研究所（RILAC）が設立された。当研究所では、区民の生活に最も近いところでニーズを把握している区職員とともに、多様な分野の有識者の意見を踏まえ荒川区民総幸福度（GAH）指標を作成した「幸福実感度」と、その基礎となる「健康・福祉」「子育て・教育」「産業」「環境」「文化」「安全・安心」の6つの分野の指標によって構成されている。



### 5 委員長所感

春日部市では、職員が専門知識を持っている分野は限られているのはデメリットだが地域に精通した職員が行った方が、地域に根差した成果物ができるとのことであった。本市においても、地域に則した政策や施策を研究する際にはこの考え方は大切であると感じた。

荒川区では、区民総幸福度調査は区政調査が客観的指標を用いてアンケート項目を作っていることとは対照的に主観的指標をアンケート項目にしている。その背景には行政評価を行う際にアウトカムの評価がし易くなるということであった。この調査を毎年、10年間実施され、それを分析し政策や施策に反映していることは大変参考になった。